
**平成25年3月期
第2四半期決算 説明会**

2012年11月19日

阪和興業株式会社

- ・ 売上高は、鉄鋼や金属原料、非鉄金属事業における販売価格の下落などから、前年同期比3.6%減の7,355億73百万円となりました。

利益面は、販売価格の下落による利益率の低下や特別損失の計上などから減益となり、第2四半期純損益は87百万円の純損失となりました。

- ・ 通期業績は、以下を見込んでいます。

売上高	1兆4,860億円	(従来予想比	△ 1,140億円)
営業利益	123億円	(従来予想比	△ 57億円)
経常利益	106億円	(従来予想比	△ 44億円)
当期純利益	39億円	(従来予想比	△ 48億円)

- ・ 配当については、中間配当は2円減配の4円を、期末配当は6円を予定しています。

(単位:百万円)

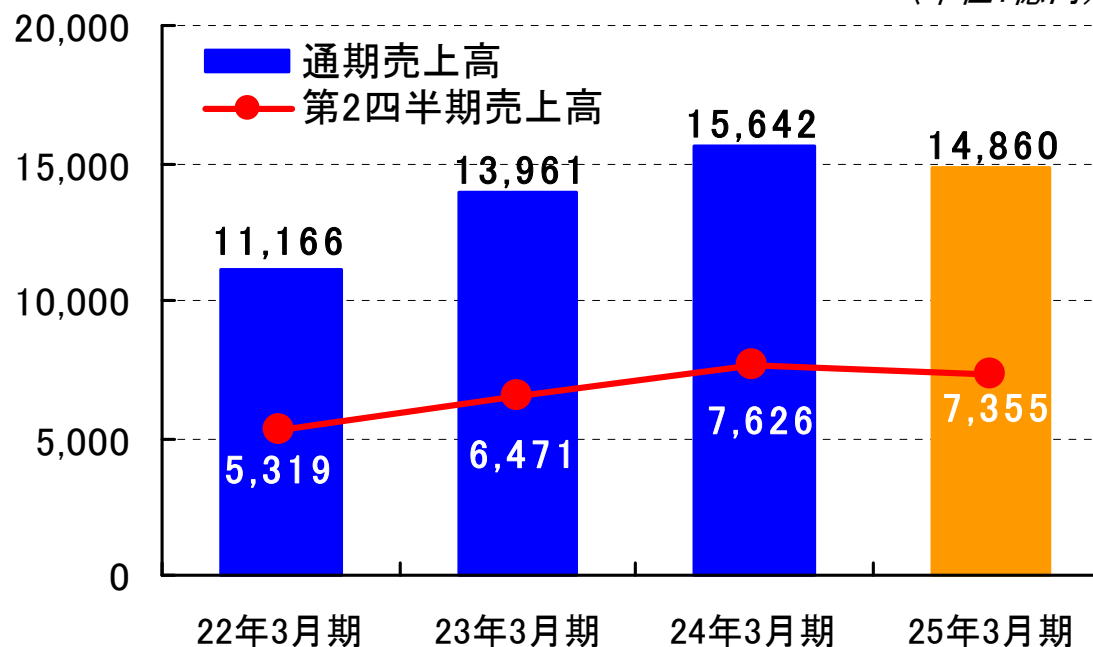
	当四半期 (累計)	前四半期 (累計)	増減比
売上高	735,573	762,648	△3.6%
売上総利益	20,665	25,837	△20.0%
販管費	15,633	15,727	△0.6%
営業利益	5,032	10,109	△50.2%
営業外損益	△825	△0	—
経常利益	4,206	10,109	△58.4%
特別損益	△4,358	△3,307	△31.8%
税引前純利益	△151	6,802	—
法人税等	△54	2,859	—
少数株主損益	△10	120	—
四半期純利益	△87	3,822	—
包括利益	△1,833	3,556	—

- 売上高**
 主に鉄鋼、金属原料、非鉄金属事業においては、販売価格の下落などにより、前年同期比3.6%の減少。
- 営業利益・経常利益**
 販売価格の下落による利益率の低下などにより、それぞれ前年同期比50.2%、58.4%の減益。
- 四半期純損益**
 投資有価証券評価損の計上などにより、87百万円の損失。
- 一株当たり純損失**
 △0円42銭(△18円86銭)

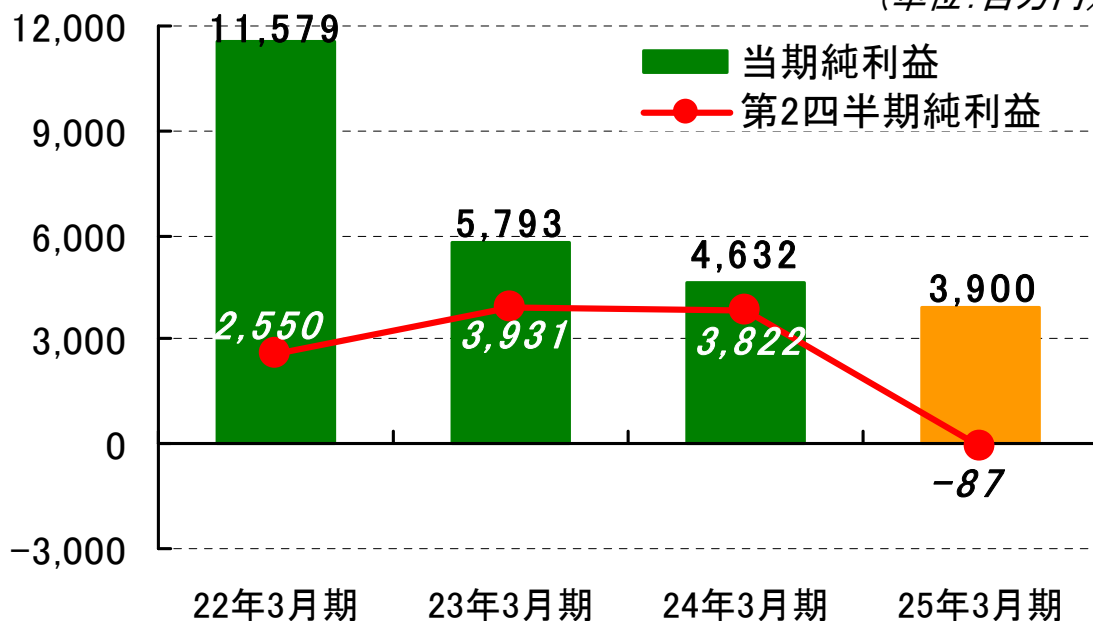
回復基調にあった需要は、今期に入り、欧州経済の低迷長期化により中国の輸出が減速。投資抑制政策の影響もあり、中国経済の変調が顕著に。国内需要は比較的堅調も、価格下落が継続。

第2四半期までの売上高は前年同期比減少、当期純損益も事業収益の低下に加え、特別損失の計上などにより大幅減益に。

(単位:億円)



(単位:百万円)



(単位:百万円)

	当四半期末	前期末	前期末比
総資産	538,217	582,404	△7.6%
流動資産	428,782	467,982	△8.4%
固定資産	109,434	114,422	△4.4%
負債	425,140	466,448	△8.9%
有利子負債	233,362	243,142	△4.0%
純資産	113,077	115,956	△2.5%
株主資本	113,117	114,209	△1.0%
その他の包括利益 累計額	△2,324	△580	△300.7%
少数株主持分	2,283	2,326	△1.8%

・総資産

売上債権やたな卸資産の減少などにより、7.6%の減少。

・有利子負債

4.0%減少し、ネットDERは1.9倍に。

・純資産

四半期純損益が損失となったことやその他有価証券評価差額金の減少により、2.5%の減少。
自己資本比率は、20.6%。

・一株当たり純資産

534円55銭(△13円67銭)

キャッシュ・フローの状況（連結）

(単位:百万円)

	当四半期 (累計)	前四半期 (累計)	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	13,834	3,736	+10,098
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,557	△6,178	+3,621
財務活動による キャッシュ・フロー	△15,557	△110	△15,447
現金及び現金同等物 期末残高	19,317	18,968	+349

- ・ 営業活動CF
売上債権やたな卸資産の減少などにより、138億円の収入。
- ・ 投資活動CF
有形固定資産や投資有価証券の取得に係る支出により、25億円の支出。
- ・ 財務活動CF
短期借入金の返済などにより、155億円の支出。

事業セグメント別の状況（連結）

売上高

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄鋼	355,618	366,600	△3.0%
金属原料	50,622	68,349	△25.9%
非鉄金属	32,779	33,553	△2.3%
食品	46,109	46,231	△0.3%
石油・化成品	204,236	203,348	+0.4%
報告セグメント計	689,366	718,082	△4.0%
その他	82,676	77,044	+7.3%
合計	772,043	795,127	△2.9%
調整額	△36,469	△32,479	△12.3%
PL計上額	735,573	762,648	△3.6%

セグメント利益

(単位:百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	前年同期比
鉄鋼	3,941	4,366	△9.7%
金属原料	1,248	2,305	△45.9%
非鉄金属	389	1,587	△75.5%
食品	401	949	△57.7%
石油・化成品	319	1,328	△76.0%
報告セグメント計	6,300	10,537	△40.2%
その他	673	1,422	△52.7%
合計	6,974	11,960	△41.7%
調整額	△2,767	△1,850	△49.6%
PL計上額	4,206	10,109	△58.4%

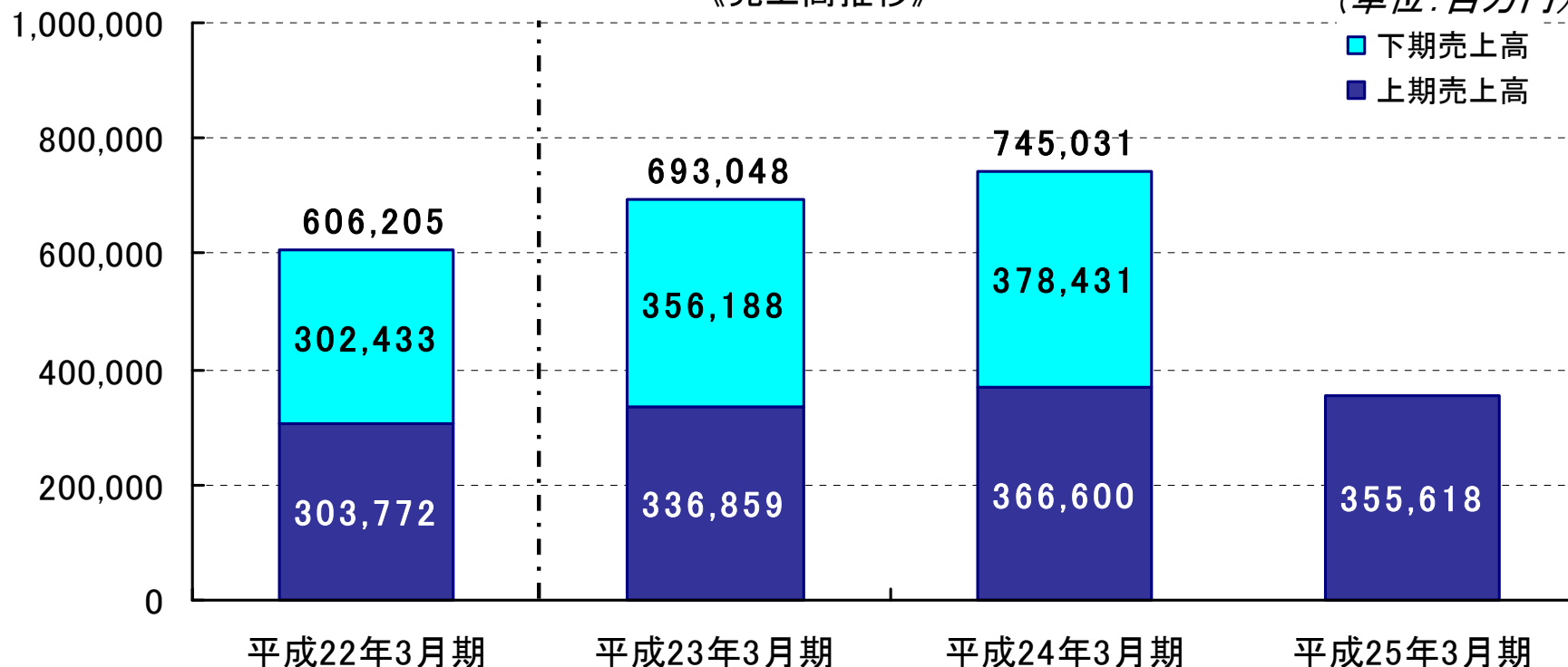
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	355,618	3,941	1.1%
前第2四半期	366,600	4,366	1.2%

本格的な震災復興需要は未出件ながら、先行する土木分野や中小建築物件中心に底堅い荷動き、製造業向けも稼働水準は概ね堅調。利益面では、前期から鋼材価格の下落基調が継続し、在庫や実取引での採算が低迷した。

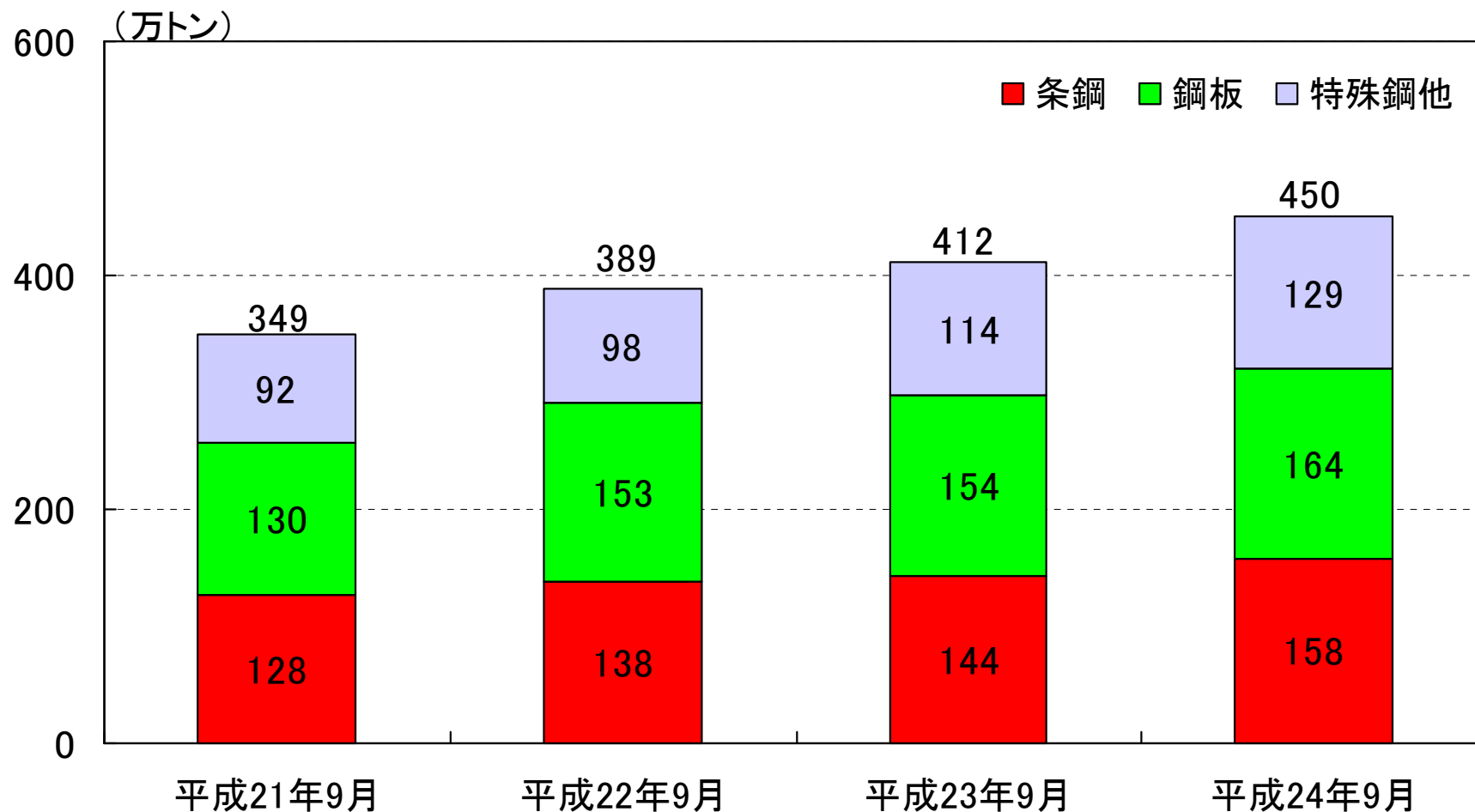
《売上高推移》

(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

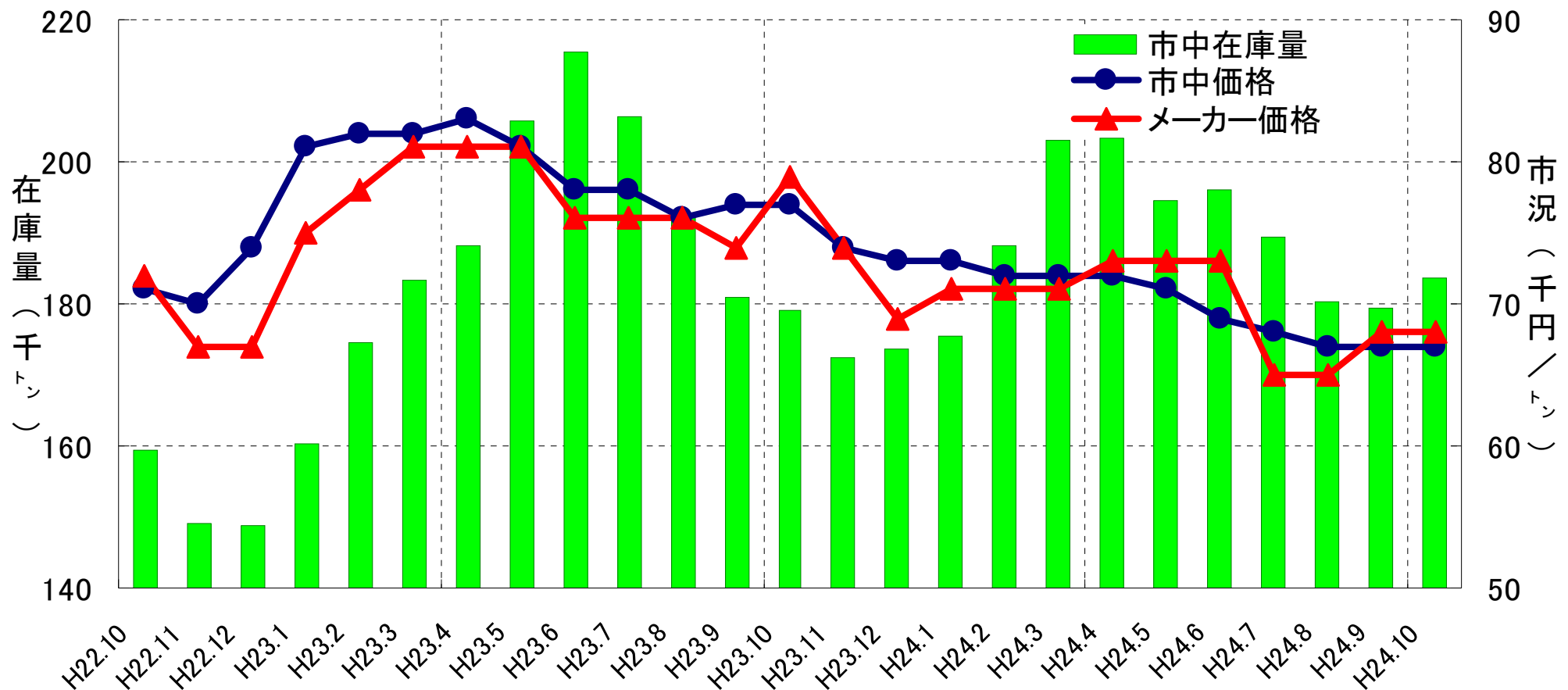
店売り市場の不振、海外市況の低迷など厳しい環境ではあったが、条鋼類、鋼板類ともに前年同期に比べ増加。
特殊鋼他に含まれている鉄スクラップの扱い量も増加傾向が続いている。
今後は、国内製造業の稼働減、日中関係の悪化の影響が懸念される。



2012年に入り、復興需要を見込んだ増産傾向から市中在庫は増加。一方、店売り市場は目立った需要増加が無く、市中価格はほぼ一貫して下落基調。

足元ようやく市中在庫の減少が進み、流通業者は採算改善のため、先安感からの転換を図っている。

【H形鋼 市中在庫量と市況の推移】

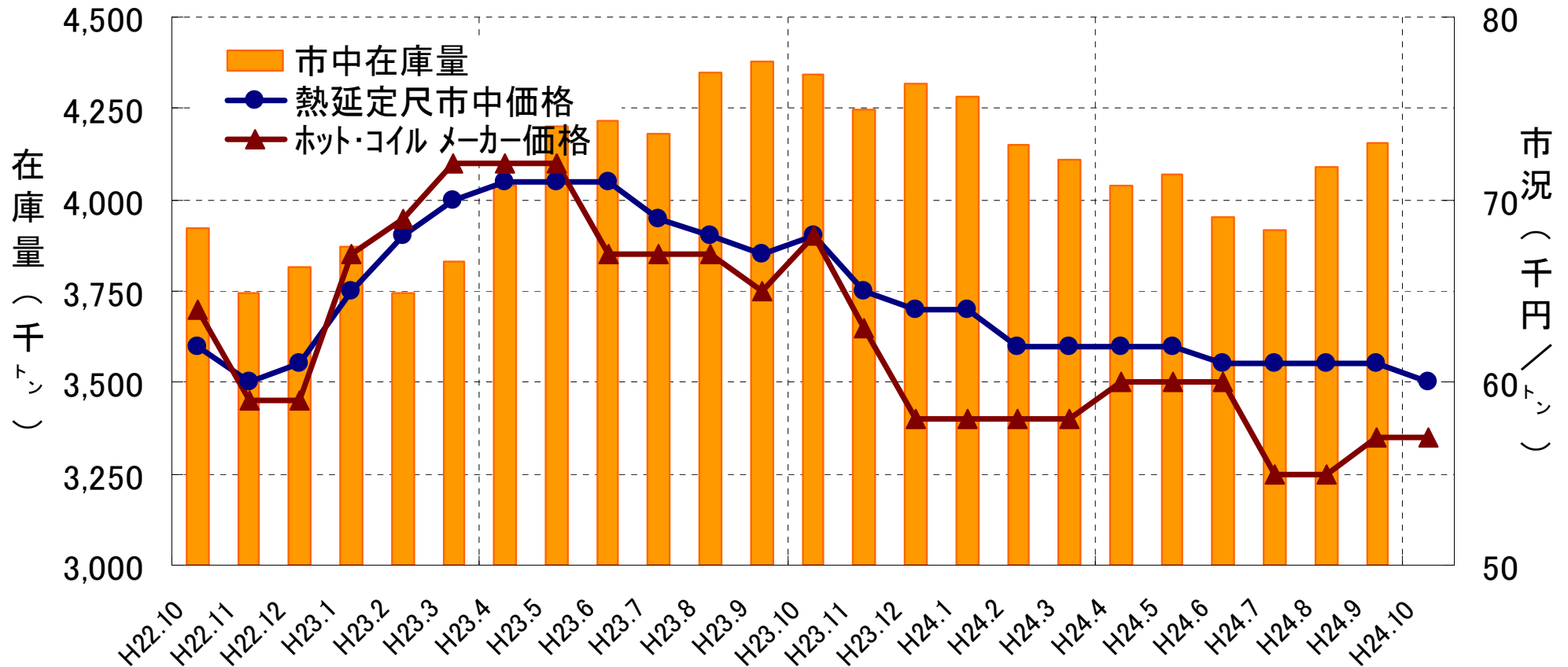


(出所: 在庫/ときわ会、価格/鉄鋼新聞)

市中在庫は緩やかに減少したものの、店売り市況は需要の低迷により弱含みで推移。

下期以降は自動車の減産や中国向けの製造業稼働が低下すると見込まれ、市況の停滞が懸念される。

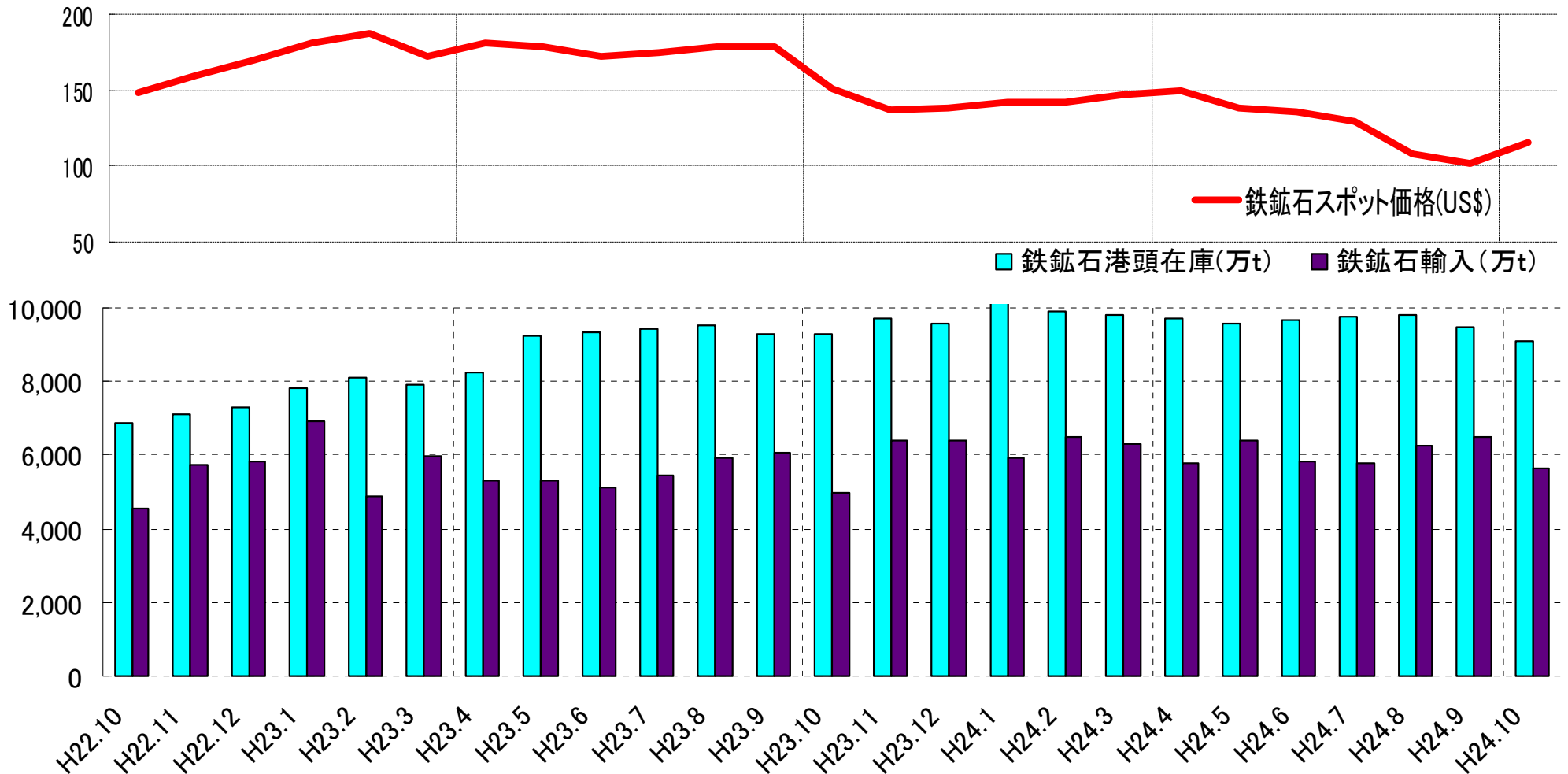
【薄板3品 市中在庫量と熱延鋼板市況の推移】



(出所:在庫/日本鉄鋼連盟、価格/鉄鋼新聞)

景気引締めに加え、欧州向け需要の停滞により、中国の輸入鉄鉱石市況は、今期に入り約50ドル下落。港頭在庫の消化も進んでいなかったが、国慶節後の買いの増加に伴い、市況は反転し、在庫も減少傾向に。

【中国の鉄鉱石市場】

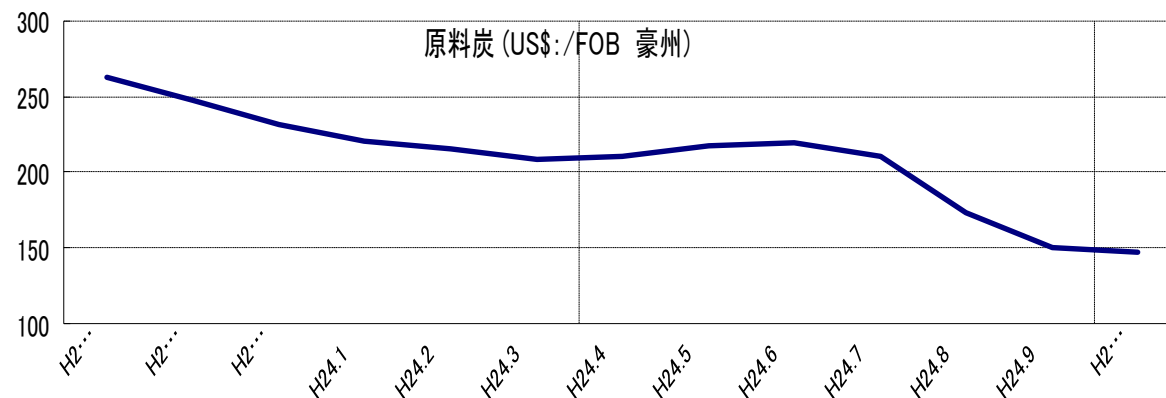


(出所：Interfax、中国海関統計)

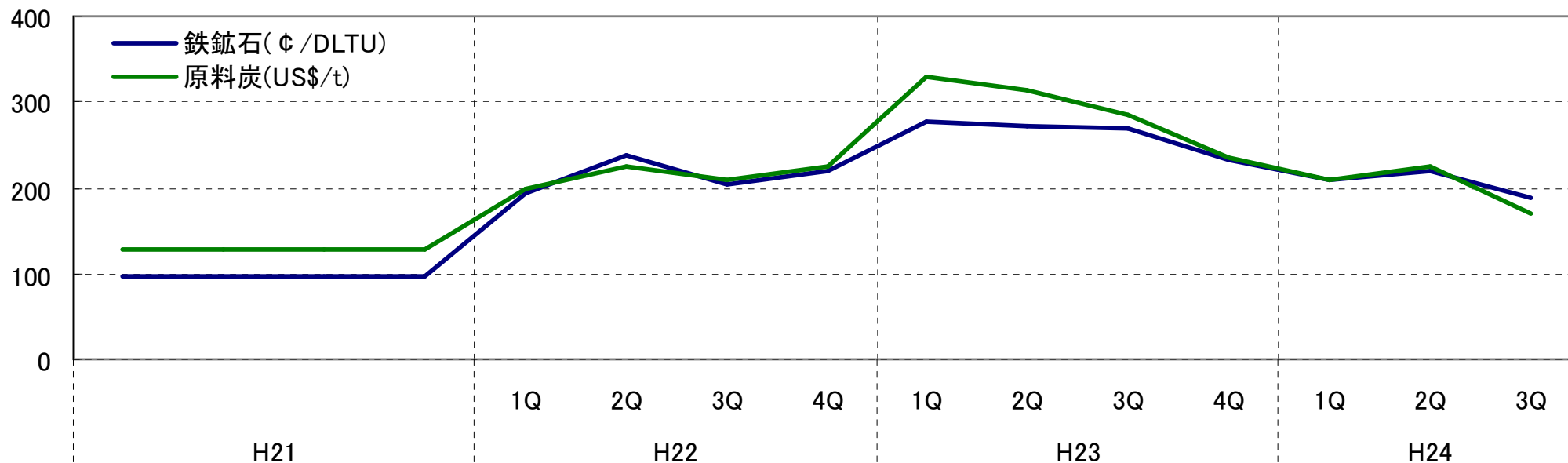
原料炭も豪州ストライキの終結後は、中国需要の低迷を反映し、急落。

今期の山元との契約価格は、第2四半期に若干値上げ後、再び下落。これまではスポット市況の下げが先行し、四半期価格の割高な状態が続いている。

【原料炭価格の推移】



【山元と高炉メーカーとの契約価格】

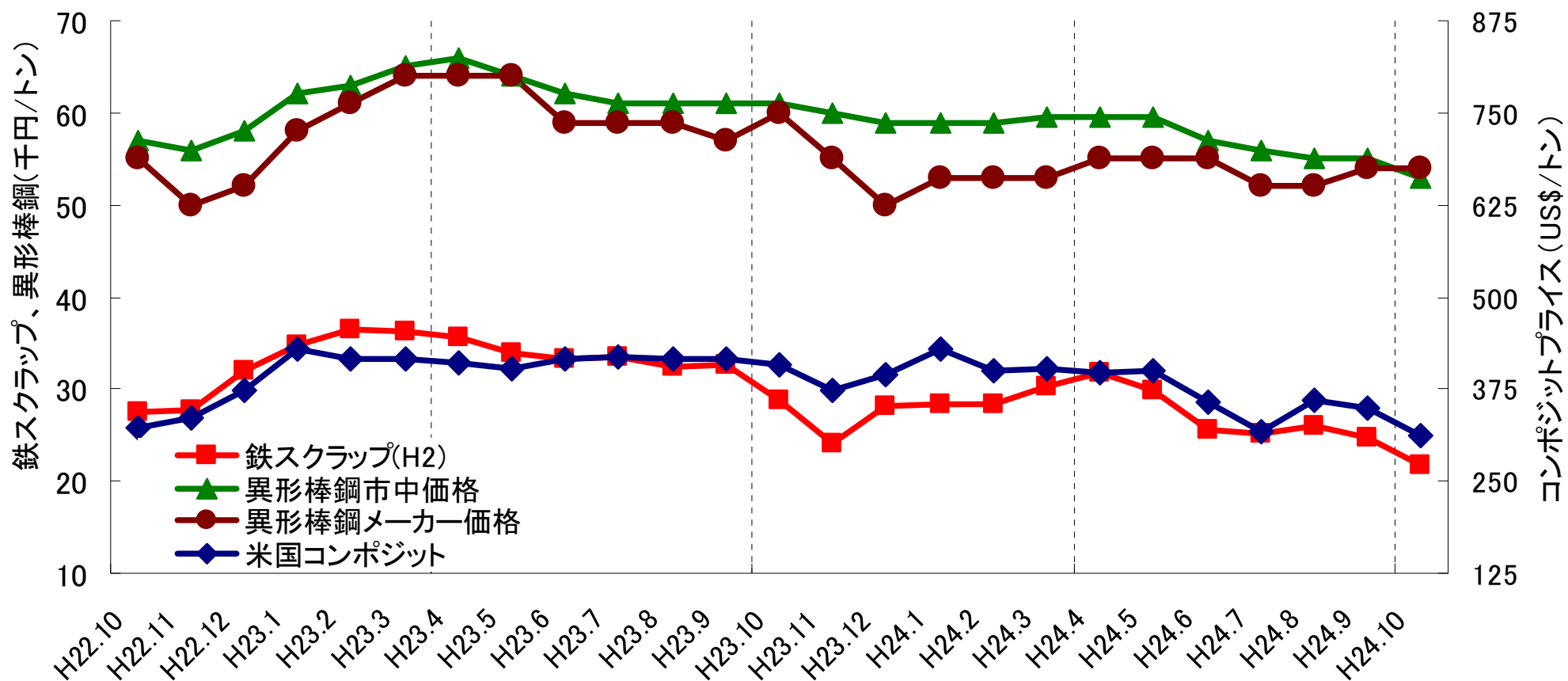


(出所:各種報道)

鉄スクラップはトルコ、韓国、中国などの買い控えにより、海外市況が軟調推移。国内屑価格も輸出低調で電炉の購買に余裕があり、弱含み。8月にトルコのラマダン明け後の買い期待で一時上昇したものの、足元は再び軟調。

鉄筋市況もスクラップの弱い基調から先安感が強く、弱含みで推移。

【鉄スクラップと異形棒鋼市況の推移】

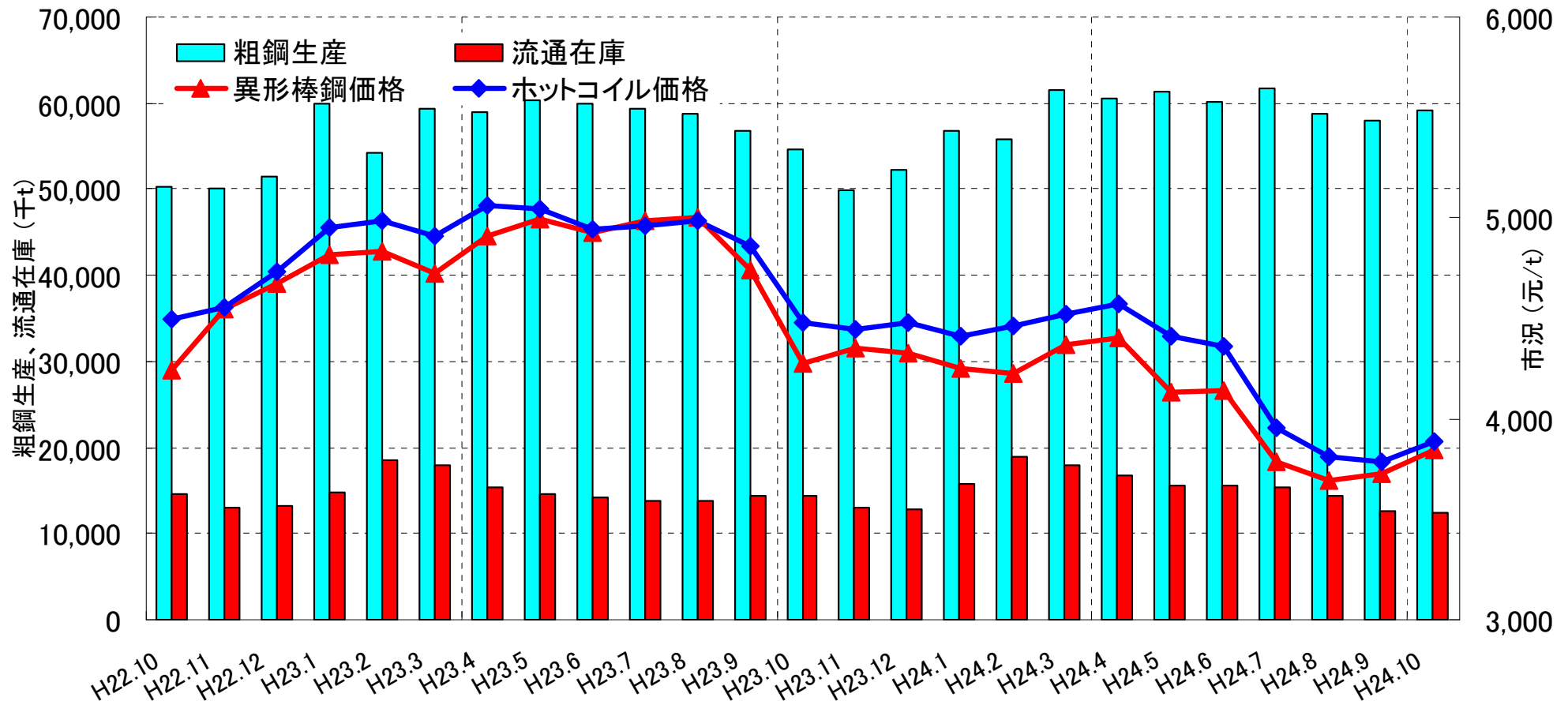


(出所: 日本鉄源協会 鉄鋼新聞)

鋼材市況軟化後も、粗鋼生産の水準は高く、生産調整が進まない状況。流通在庫にも過剰感。

市況は国慶節明け後、上昇傾向にあるが、今後冬場の不需要期に入るため、先行きは不透明。

【鉄鋼需給と鋼材市況の推移】

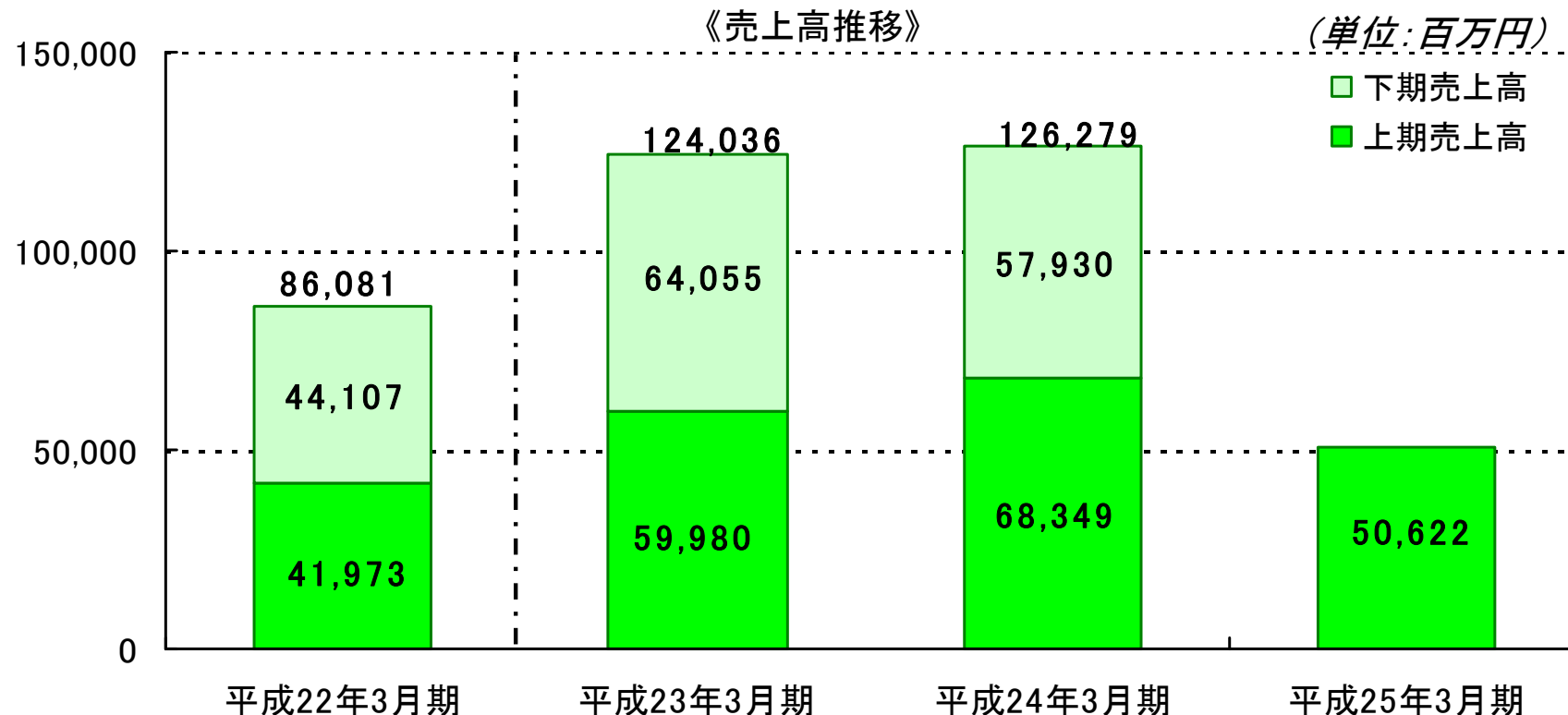


(出所: 日本鉄鋼連盟)

(単位:百万円)

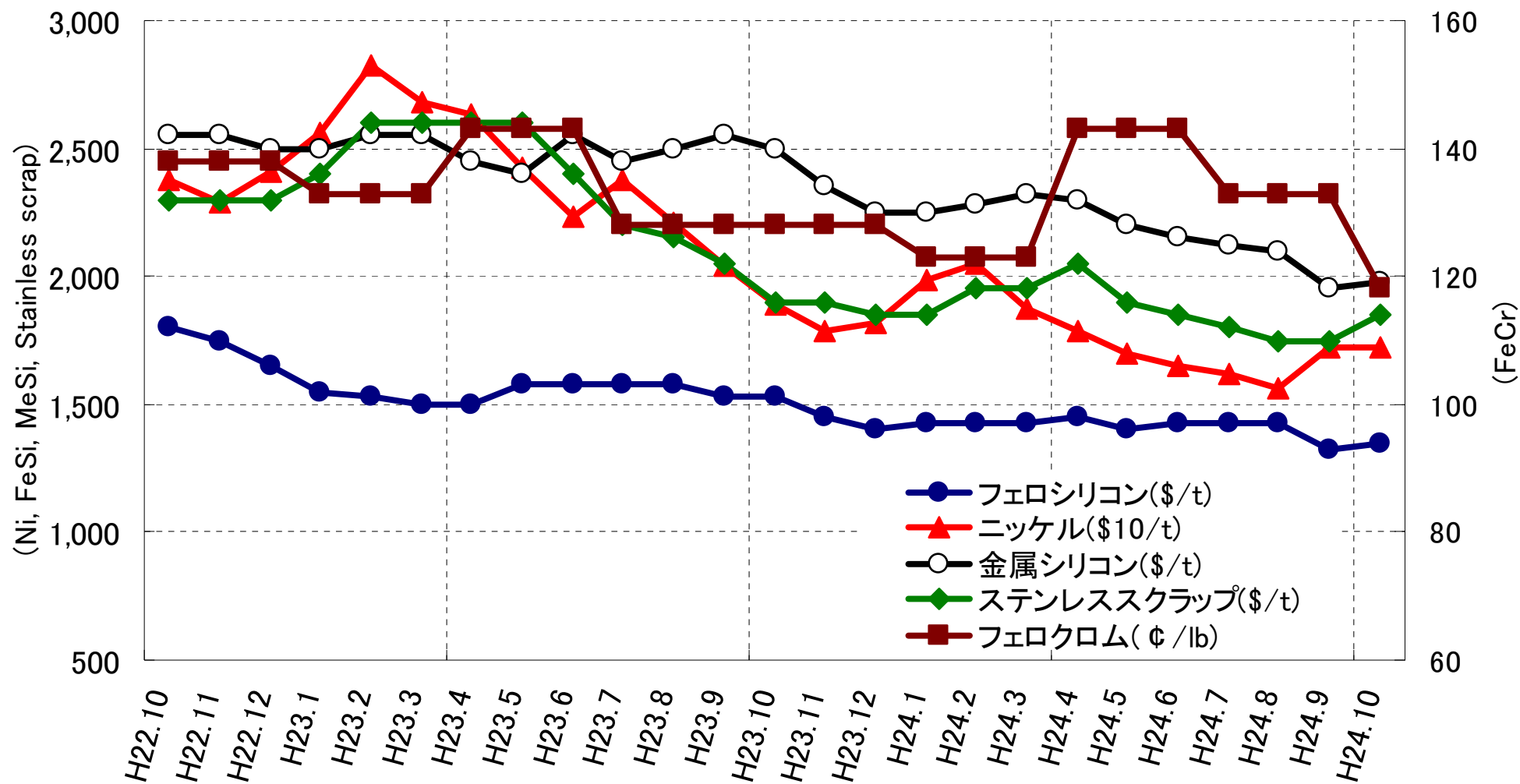
	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	50,622	1,248	2.5%
前第2四半期	68,349	2,305	3.4%

世界的なステンレス需要の低迷により、メーカーが大幅な減産を実施。原料需要が減退し、市場価格が下落した。販売量が伸び悩む中、スクラップ発生減から仕入れコストが上昇し、収益を押し下げた。



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

ステンレス需要の低迷から原料需要が減退し、ニッケルや合金鉄などステンレス関連原料は全般的に下落基調で推移。
 ニッケルは9月に反発したものの、足元は一服状態。



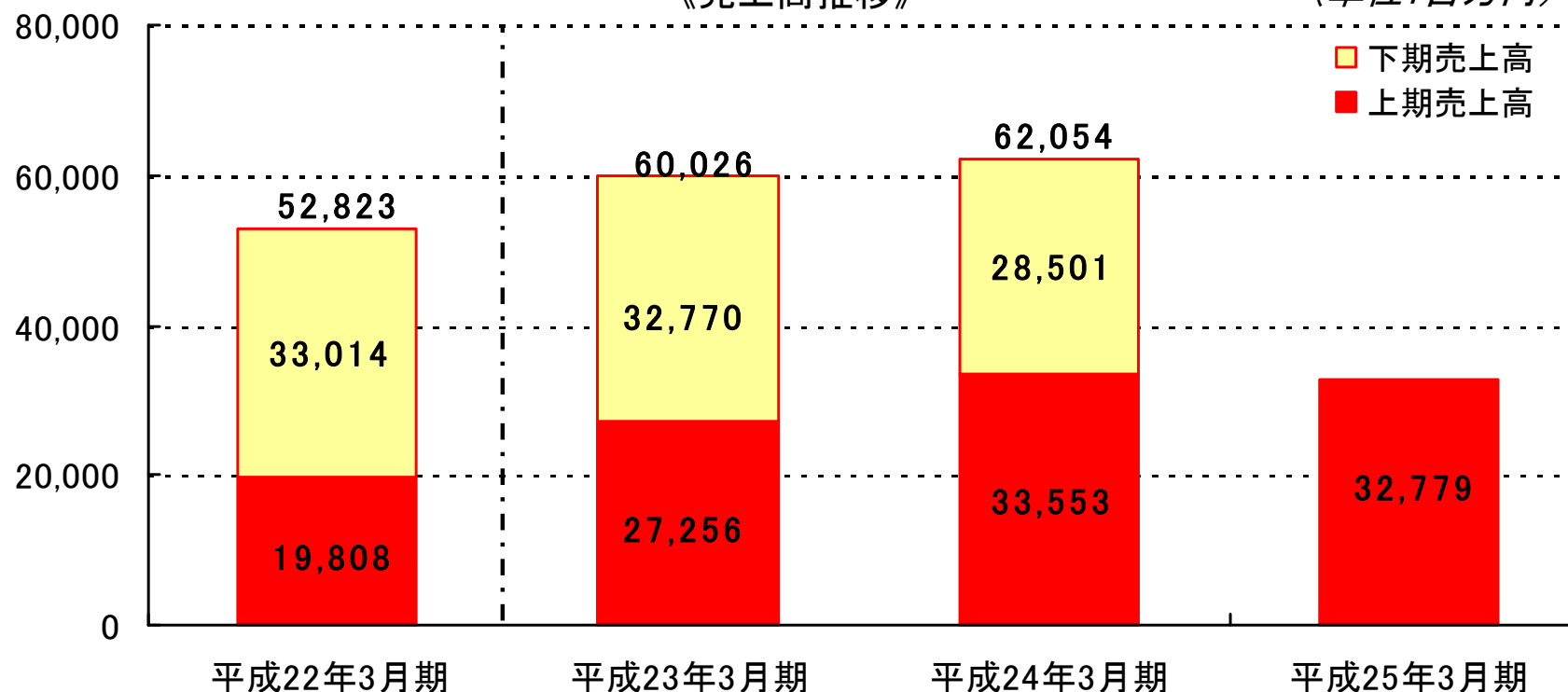
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	32,779	389	1.2%
前第2四半期	33,553	1,587	4.7%

自動車向けなど中心に需要は比較的堅調に推移し、スクラップ販売も伸びたものの、スクラップ発生減による仕入コスト上昇のため、採算確保に苦勞。ヘッジ目的のデリバティブ取引の時価評価益が減少したこともあり、大幅減益に。

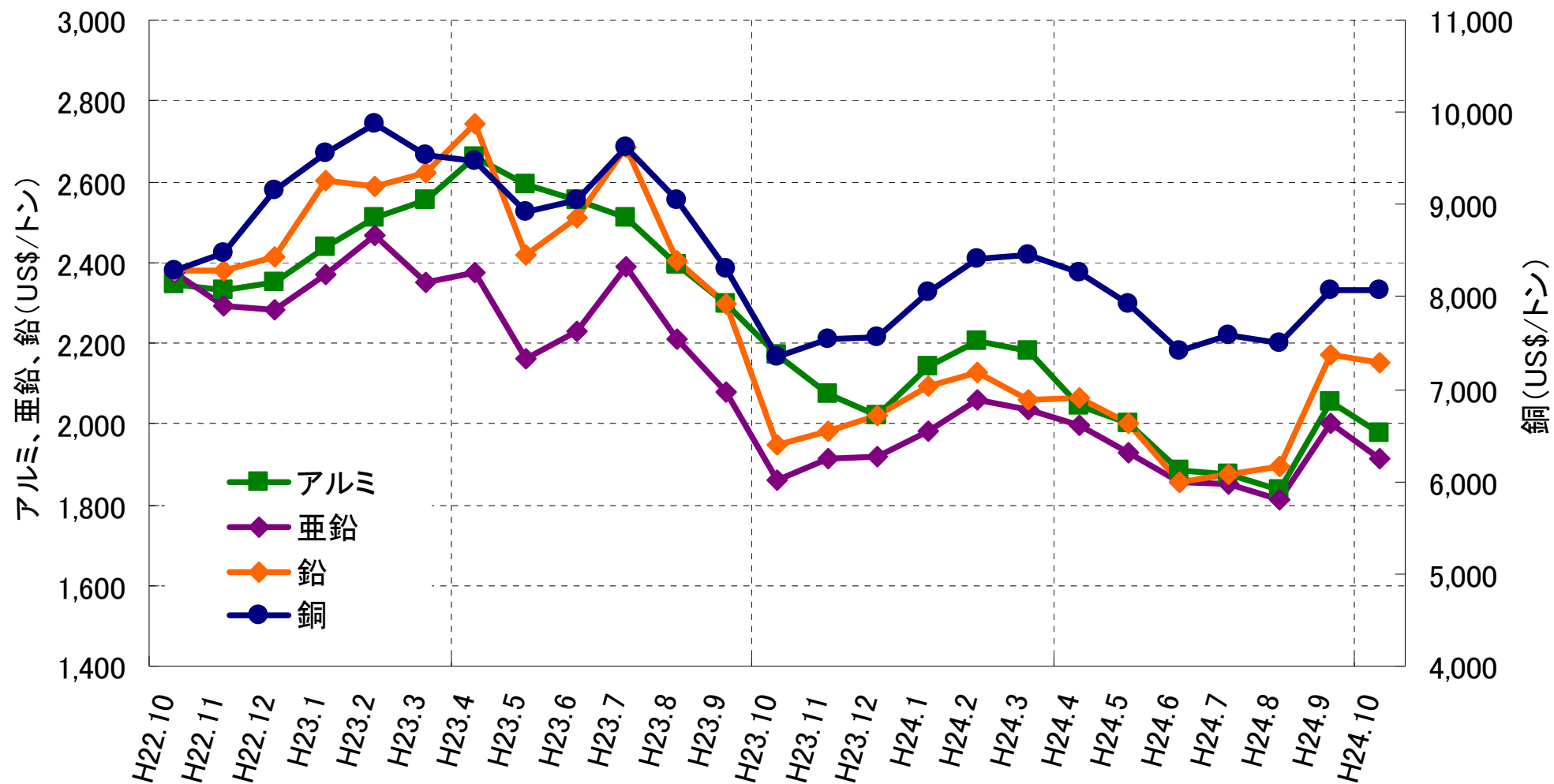
《売上高推移》

(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

LME価格は金融環境の変化による投機資金の動きに影響を受け、下落基調で推移。9月に米国金融緩和や中国インフラ投資承認への期待感から反転上昇するも、足元はIMFの世界経済見通しの下方修正などにより、再び下落基調に。



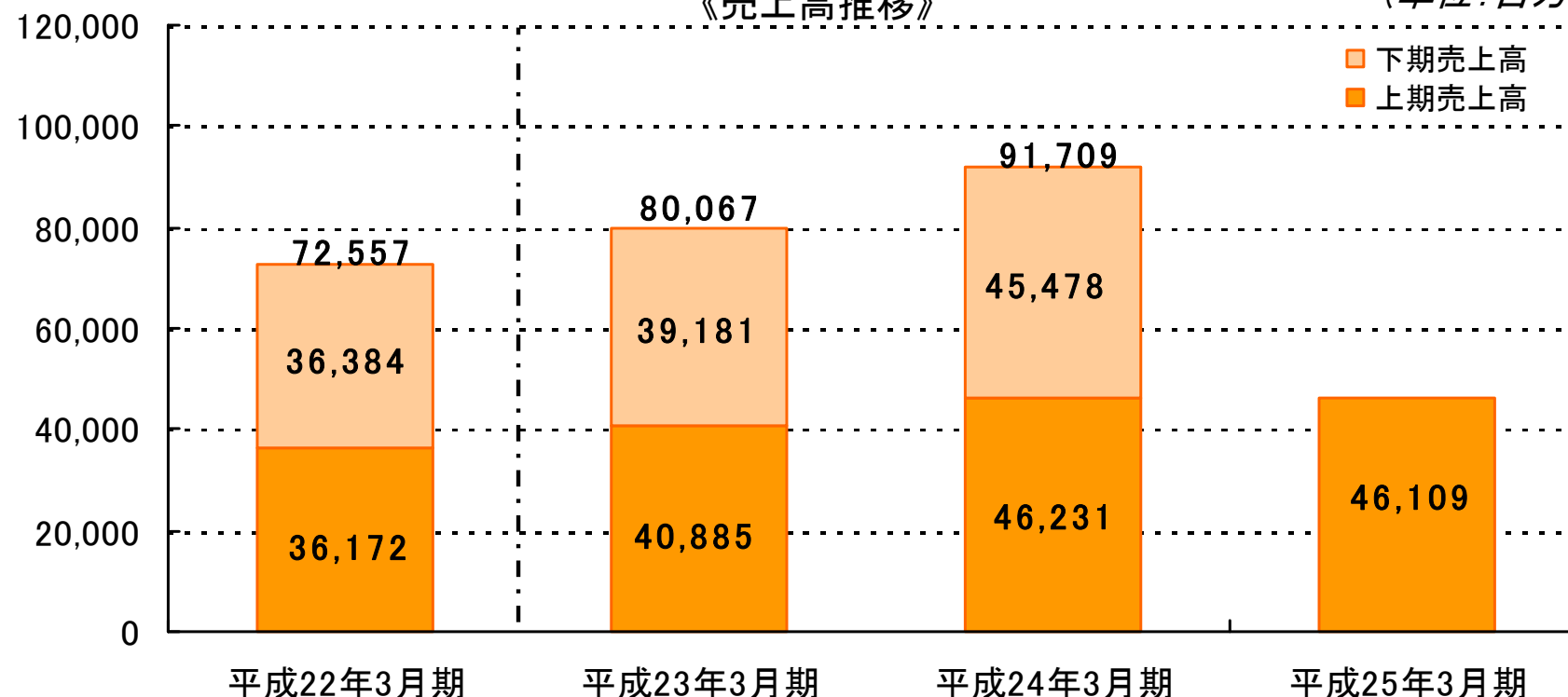
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	46,109	401	0.9%
前第2四半期	46,231	949	2.1%

国内需要は低調に推移。前期に暴落した養殖サケが今期に入っても続落し、他の魚種の価格や販売の下げ要因に。エビなど主力商品の価格下落も収益を押し下げた。

《売上高推移》

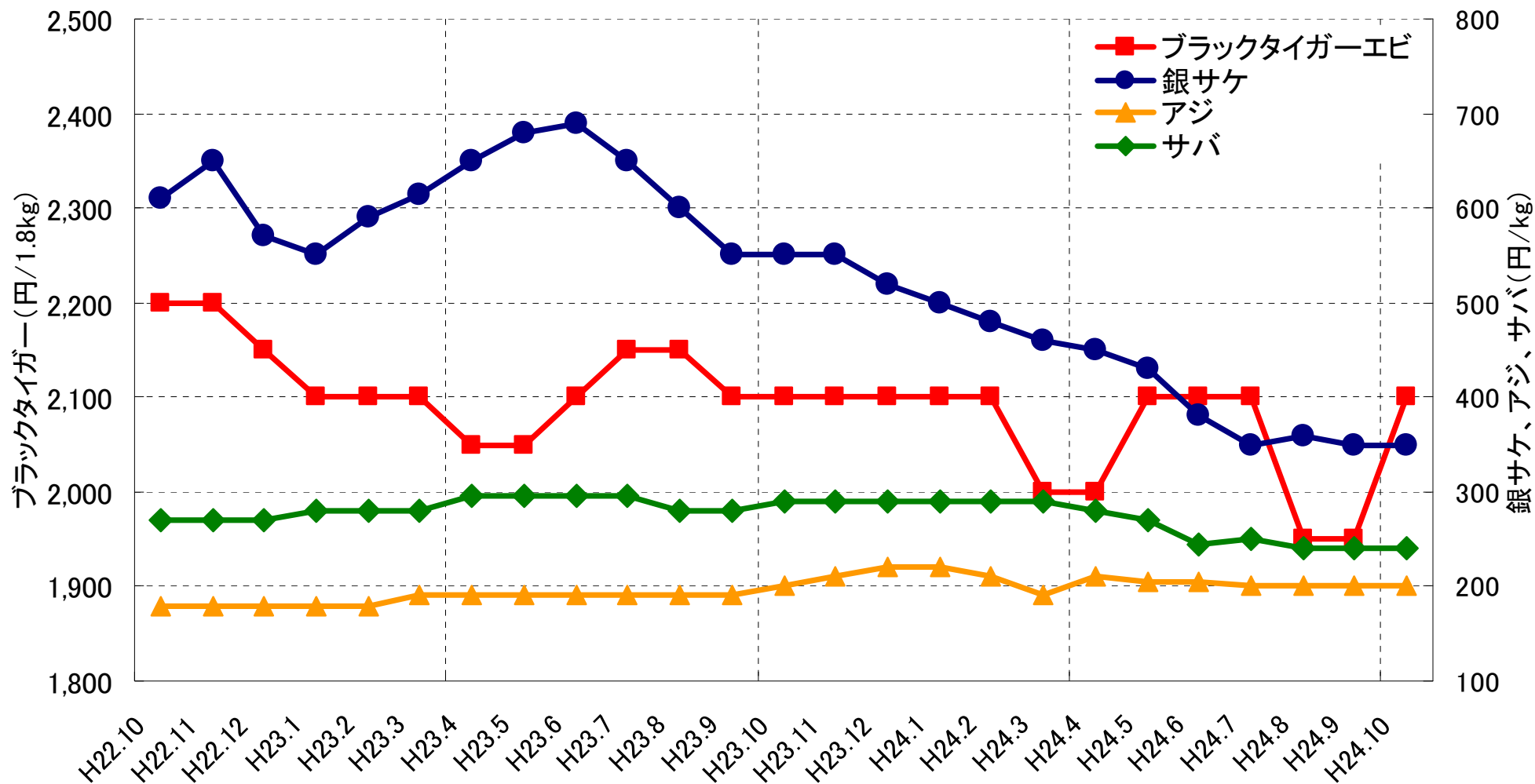
(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

養殖サケの価格が今期に入っても下落、足元ようやく下げ止まり。

世界景気の低迷でエビの国際価格も弱含みで推移したが、足元、インド産の残留薬品問題からタイト感が強まり、反発している



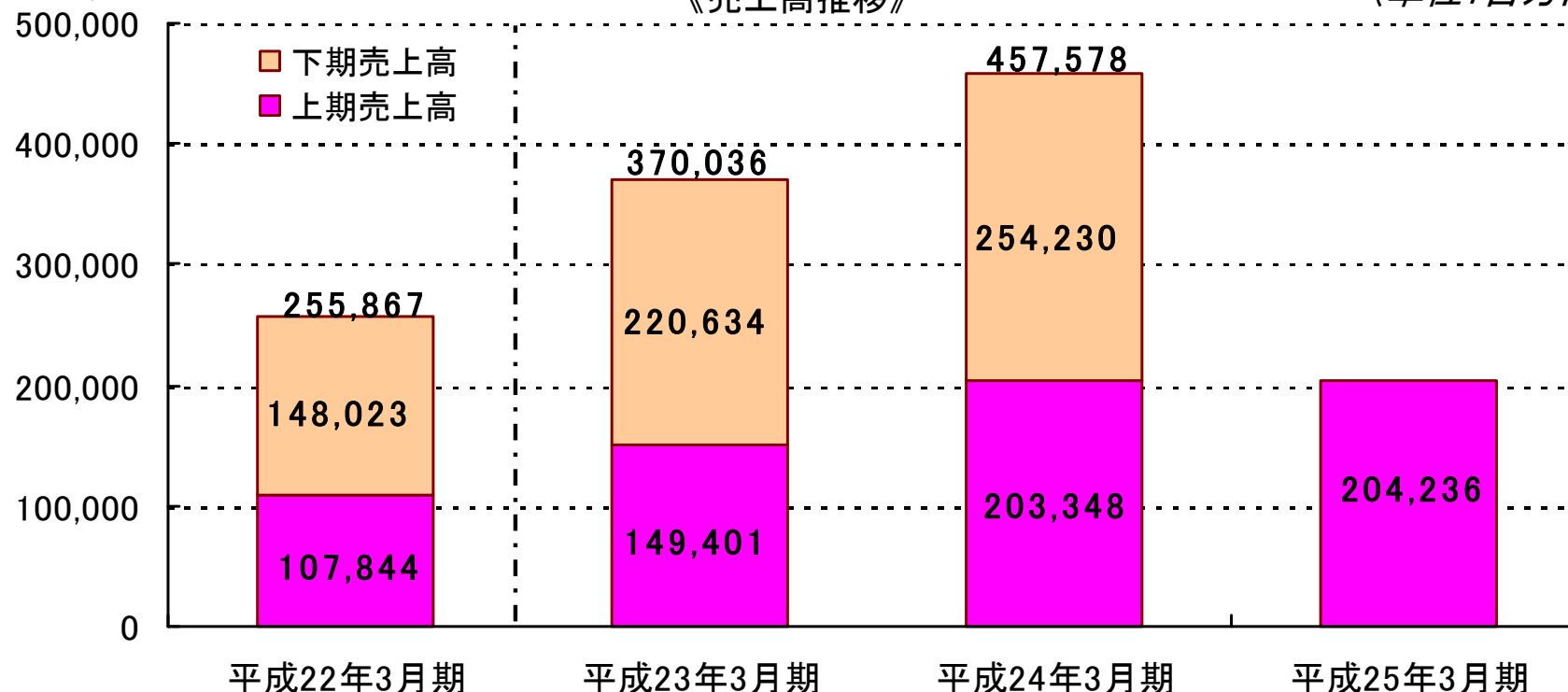
(単位:百万円)

	売上高	セグメント利益	利益率
当第2四半期	204,236	319	0.2%
前第2四半期	203,348	1,328	0.7%

全体の需要は低調だったものの、子会社と連携して、軽油等の販売は伸張。前期の震災関連の一時的な収益がなくなった他、末端の販売価格競争が激しい中で、原油価格の反転に伴う製品仕入価格の上昇により、採算面では苦しい環境に。

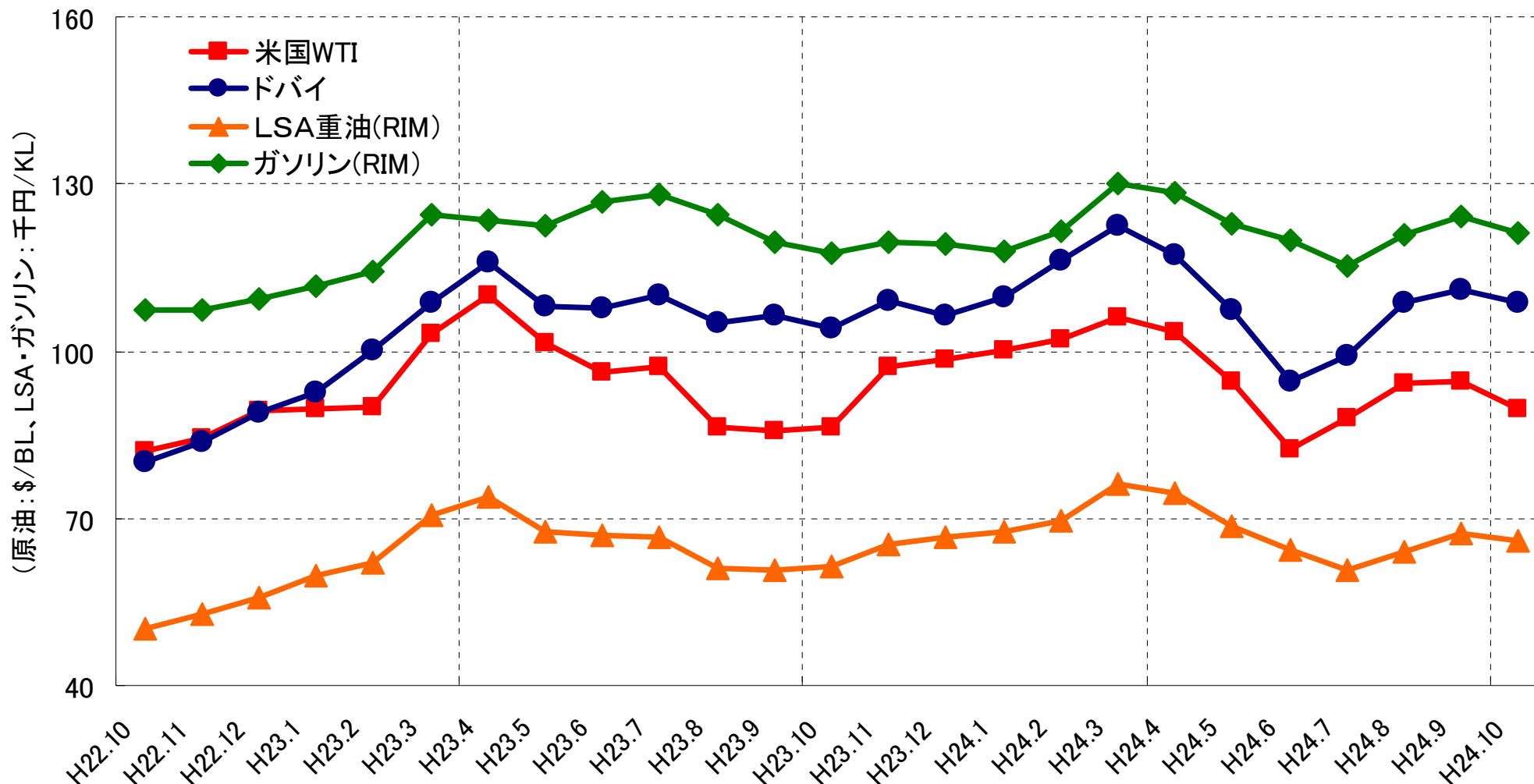
《売上高推移》

(単位:百万円)



※平成23年3月期より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成21年3月27日 企業会計基準第17号)を適用し、事業セグメントを取扱商品による区分から経営管理上の区分に変更しているため、業績数値は接続していません。

原油価格は欧州の金融不安から下落基調にあったが、中東情勢の変化や米国南部へのハリケーンなどにより、第2四半期から上昇に転じた。原油価格の反転に連動して、石油製品の業者間取引価格も上昇したが、10月に入り、世界経済の不透明感から再び軟調に。



【国内事業の深耕】

国内拠点の拡充・・・岡山営業所開設（H24年4月）

堺流通センター、九州流通センター開設（H24年4月）

機能強化のM&A・・・カネキ 子会社化（H24年8月）

廣内圧延工業 子会社化（H24年8月）

正起金属加工 出資（H24年10月 2年後に子会社化予定）

【海外展開の強化】

海外拠点の拡充・・・天津事務所開設（H24年6月）

メキシコ事務所開設（H24年11月）

事業投資の推進・・・ベトナム/SMC Trading 出資（H24年5月）

中国/渤海鋼鉄集団 包括提携締結（H24年7月）

加工機能の強化・・・HANWA STEEL SERVICE INDONESIA 加工能力増強
（H24年6月）

平成25年3月期(通期)の連結業績予想

上期業績は、価格下落などにより、当初見込みを下回る進捗となった。下期以降も、欧州情勢や自動車など国内産業の稼働状況、日中関係の悪化の中国関連需要への影響など不透明感が強い状況である。

中間配当は上期収益を踏まえて、遺憾ながら4円に減配予定、期末配当は6円据置きを見込んでいる。

(単位:百万円)

	第2四半期累計	通期予想	平成24年3月期
売上高	735,573	1,486,000	1,564,250
営業利益	5,032	12,300	14,976
経常利益	4,206	10,600	13,116
当期純利益	△87	3,900	4,632

	年間	中間	期末
1株当たり配当金	10円00銭	4円00銭	6円00銭

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。